

今年の干支は亥。己亥の本年は、成長が整い、温故知新、次の準備を強いエネルギーで迎える年といわれているようだ。60年前の己亥の年は、天皇、皇后両陛下のご成婚があり、わが家では父が奮発してテレビを購入したため、近所の人々が集まって青空の下の美しいご成婚パレードを見ることができた。

大人たちはテレビを見ながら国の栄光への思いを語っていたのか、「国」という愛の共同社会のあたたかさを初めて自分の胸に抱くという出来事でもあった。当時テレビの普及は200万台を突破し、1500万人が推定視聴したといわれている。岸信介内閣では国民年金法や最低賃金法が成立、社会保障の基礎も整い始めた年でもあった。

それから60年、日本は日々々の努力により平和で経済力のある社会となった。課題はあるものの感謝でいっぱいである。

先日ある会合で、平成生まれの女性から「今年はどうな新しいことに挑戦されますか？」と質問された。その明るさに「挑戦」する心の躍動感をいただきたい背筋が伸びる思いがした。

実はこのところ文教関係の議員の間で、「人生100年時代の教育」を議論し続けている。教育を「幸福感を100年にわたって支えるもの」として捉え、予算、内容、場所の整備などの施策の検討を重ねている。

幸せな人は多様な人間関係、感謝の心と思いやり、困難を乗り越える力があるなどいわれる、

# 体験が人生を拓く、挑戦を

## ■ 解答乱麻 ■



参院議員 山谷えり子

寿命も7、10年長いという。人生100年ともなれば、山あり谷ありで、立ち尽くす人生の季節も増してくるが、いつ何が襲ってくるかわからない中で、柔軟性、樂觀性、胆力、耐力、チャレンジ精神などを意識的に育てていくことが必修科目であり続けよう。

特に若い時代のさまざまな知徳体にまつわる学習体験は、その後の思い通りいかない人生の季節を過ごす時、思いがけぬ形で人を救い人生を拓いてくれることもある。教育こそ資本である。私たちはあたたかい友情の中で幼少期から体、声、手先をどう動かす、人間的喜びを高め、いくかを学んできている。諸外国からは日本の学校のカリキュラムは世界で最もバランスと深さに富むものの一つと評価されてもいる。真善美を求め文武両道の伝統を歩み続けた先人の努力のおかげかもしれない。

実は私も50歳を過ぎた頃、ある大きな失意の中で合気道と書道のお稽古に通い直し、日本の底力の源である「道」の力をい

たいいて助けられた。今年もこうしたい縁の中でい

〈やまたに・えりこ〉サ  
ンケイリビング新聞編集  
長、国務大臣(国家公安委  
員長・拉致問題担当相)な  
ど歴任。1男2女の母。

月5日の武道館の書き初め大会で、4歳から96歳まで全国の約3千人の同好の方たちとともに本年の高・大・一般の部のお題「石走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりにけるかも」(万葉集・志貴皇子)を未熟ながら席書した。縦136センチの用紙2枚が与えられ、太鼓の響きとともに24分以内にお手本なしで書くという、文武両道の聖地武道館ならではの緊張の時間は格別であった。タイムマシンで1000年前、1300年前へと飛翔するような心地もしてスリル満点だった。

さて、皆さまは今年、どんなことに挑戦されるでしょうか。神経生理学者の研究では人の脳内にはミラーニューロン(鏡の神経細胞)があり、周囲の人の幸福や良き生き方を鏡に映すように自分の中に取り込んで、自分もハツラツと幸せを感じる作用をもたらすという発見で、研究が進めば、人間の絆や共感性への解明となるかも知れず、興味深い。

新たにいただいた一年が、喜びと共感が反射し合って増え、年でもありますように。